

アイヌ生活文化再現マニュアル

装身具

マタンプシ・レクトウンペ・
テクンペ・ホシ・マンタリ

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化等に関する研究の推進やアイヌ語を含むアイヌ文化の振興やアイヌの伝統・文化に関する知識の普及・啓発を進めるため様々な事業を展開しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

今回は、「装身具」の製作をマニュアル化しています。本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

発刊にあたって

はじめに	7
作者紹介	8
マタンブシ（鉢巻）	9
材料・用具	10
製作	
1 糸梓づくりからイエシンニヌ（下縫い）まで	10
2 イカラリ	14
3 オホ	16
4 完成	18
レクトウンベ（首飾り）	20
材料・用具	21
製作	
1 結び紐	22
2 本体	25
3 本体と結び紐の結合	29
4 完成	29
テクンペ（手甲）	30
材料・用具	31
製作	
1 本体の裁断	32
2 ち＝乳（和裁用語）～中指を通す紐	34
3 縁をつける	35
4 刺繍	39
5 紐	41
6 仕上げ	41
7 完成	42

ホシ（脚絆）	43
材料・用具	43
製作	
1 紐（上）左右それぞれ2本	44
2 紐（下）左右1本ずつ	44
3 本体	45
4 カパラミツ（切状）	47
5 イカラリ	50
6 紐（下）の取り付け	51
7 完成	51
マンタリ（前掛け）	52
材料・用具	52
製作	
1 本体	53
2 置き布	55
3 イカラリ	57
4 帯	57
5 完成	59
おわりに	60
参考文献	61
装身具を展示・収蔵している施設	62

— 凡 例 —

映像編で入れることのできなかった解説等も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる個所があります。

はじめに

アイヌの服飾は、古くは毛皮衣と樹皮衣、近年は樹皮衣と木綿衣があげられます。樹皮衣と木綿衣など、晴着に伴う装身具としてタマサイ（首飾り、あるいはネックレス）、マタンプシ（鉢巻き、あるいはヘアバンド）やレクトウンペ（首飾り、あるいはチョーカー）などがあげられます。また、狩猟漁労や畑仕事、旅に出るときなどには、テクンペ（手甲）、ホシ（脚絆）、マンタリ（前掛け）などを身につけました。今回は、津田命子さんのマタンプシ、レクトウンペ、テクンペ、ホシ、マンタリの作り方を紹介します。

マタンプシは、元来男が髪をまとめるために鉢巻のように頭に巻きました。それが現在では女も頭に巻くようになりました。

レクトウンペはチョーカー状の首飾りで、普段も身につけることができました。

テクンペは手甲、ホシは脚絆です。狩猟漁労や畑仕事、旅に出るときなどに、手や脚を保護するために利用しました。美しい文様が施されていても儀式の席では身につけませんでした。

マンタリは前掛けです。江戸時代後期に、前掛けは「前垂れ」と呼ばれていました。その呼び名と形状をアイヌが取り入れ、アイヌの文様を施した前掛けのことをマンタリと呼びます。人によってはマエタリと発音することもあります。

作業台もなく、定規やはさみ、チャコなどの筆記用具もまだ無い時代に作り出された衣服や装身具にアイヌ文様が施されています。その衣服や装身具は、和人から入手した木綿布を小刀で切り分けて作りました。布を半分に折り、イラクサなどの繊維で作り出した糸で印をつけ、また半分に折っては糸で印をつけ、糸印の枠をつくります。糸の枠の上に、つくり手が考え出した文様の下縫いをして、その上から木綿糸で刺繍をしました。木綿布や針、木綿糸は和人から入手したものを利用しました。つくり手は日頃から先祖からの伝世品を目にしており、隣人たちが作り出したアイヌ文様をも参考にして、独自のアイヌ文様を作りだして、文様を施しました。

樹皮衣と木綿衣については、すでに『織る アットゥシ』、『縫う 木綿衣』としてまとめてあります。

作者紹介



津田 命子

1945（昭和20）年生まれ。北海道札幌市在住。古老らを訪ねてアイヌ文化を学び、さらに大学院に進学しアイヌ女性に受け継がれた衣服文化の研究に専念。学芸員資格と修士号を取得。

修士論文では衣服の文様の原理、材料、技術、環境の変化に伴う変遷などを解き明かし、アイヌ文様の科学的分析で高い評価を得ている。

また、道立アイヌ総合センター学芸員として。編み袋、刺繍、組み紐などの講習会を企画・指導しているほか、道内外の学会、集会などで講演、論文発表を行うなど、アイヌ文化の普及啓発に貢献している。

〈主な論文等〉

『アイヌ女性の創造した衣文化－異文化接触に伴う材料・技術・環境の変化が生み出した衣文化の研究－』（放送大学大学院研究所研究成果報告所収）

『アイヌ文様－その変遷と技法について』（道立近代美術館「アイヌ文様の美」所収）

『アイヌ衣服の文様構成と製作、発達、展開を探る』（第16回北方民族文化シンポジウム報告）ほか

『伝統のアイヌ文様構成法によるアイヌ刺しゅう入門 チヂリ編』

『伝統のアイヌ文様構成法によるアイヌ刺しゅう入門 カバラミツ編』

『伝統のアイヌ文様構成法によるアイヌ刺しゅう入門 ルウンペ編』

『北の手仕事展示会「誌上篇」《伝統的アイヌ衣装の再現》』

マタンプシ(鉢巻)



写真1

マタンプシ(鉢巻・バンダナ・あるいはヘアバンド)は、もともと男が頭に巻くものでした。女は主にサパシナ(頭・結ぶ)、あるいはチパヌツ(我々・頭に巻く・もの)と呼ばれ、マタンプシはより長い布で作られた鉢巻を頭に巻きました。サパシナの多くは文様が無く、文様が施されたものはたいへん少ないのです。

マタンプシの文様を施す部分は、手首から中指の先までの手の平一枚分の長さから、手の平二枚分の長さまでの間です。手の平一枚分はその人の額とほぼ同じひろさで、手の平二枚分は額を中心にして左右の耳の前あたりまでの長さに相当します。文様の少ないものは手の平一枚分、多いものは手の平二枚分と考えましょう。

今回は、横30cm、縦10cmほどの中に文様が収まるような構成のものを製作します。モデルは東京国立博物館所蔵の明治16年に収集されたと記録されている資料(資料番号25668)です。

伝統に則り、糸印で枠を作り、文様の構成を行います。

材料・用具

- ・ 木綿布（紺シーチング） タテ36cm、ヨコ115cm 1枚
- ・ 晒し木綿 タテ10～11cm、ヨコ34cm～35cm 1枚
- ・ 刺繍用の木綿糸（3色）
 - 紺色
 - 白色
 - 赤色
- ・ しつけ糸
 - ピンク色
 - 青色
 - 黄色
 - 白色
- ・ 針
- ・ はさみ
- ・ へら（裁縫用）



写真2

製作

1 糸枠づくりからイエシンニヌ（下縫い）まで

筆記用具ではなく、縫い糸で文様を下縫いすることをイエシンニヌといいます。まず糸印をつけたところで文様の構成をして、その文様を具現するための案内線を縫いつけることです。その案内線のことをイエシンニヌ（下縫い）といいます。

マタンプシの生地が115cmと長いので、本マニュアルでは文様が入る中央部分のみ抽出して解説します。

写真3の上が長い状態のもの、下がタテ36cm、ヨコ53cmほどに切り出した状態のものです。

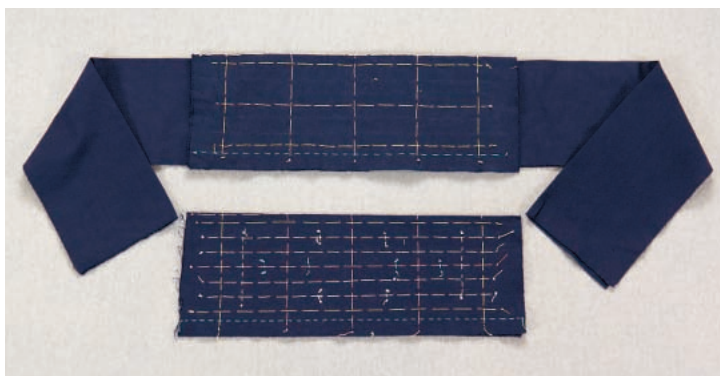


写真3

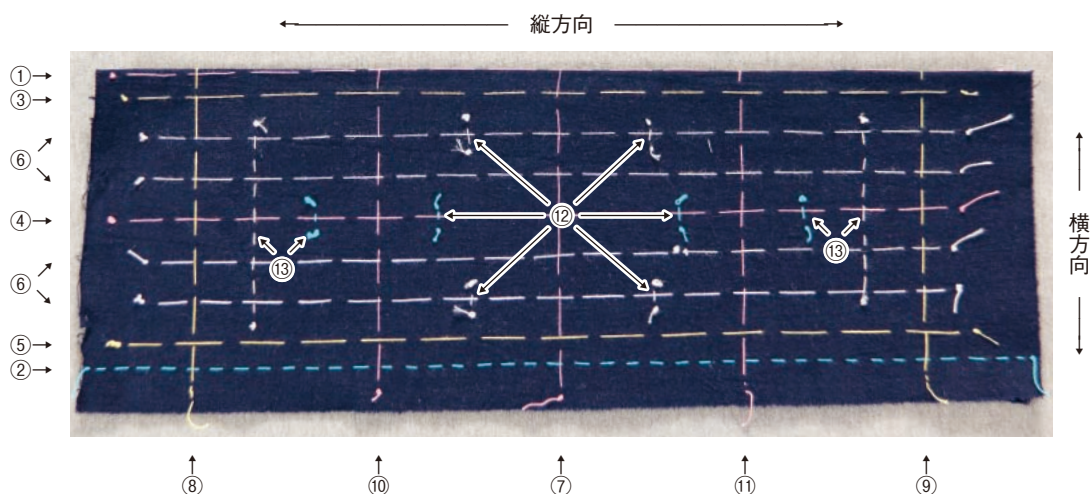


写真4

○糸印

- ① 布を縦半分に折り曲げた縦の中心。ここにしつけ糸で印を入れる。
- ② ①から12cmのところに中心線と平行に糸印を入れる。①～②までがマタンプシの縦の幅になる。
- ③ ①から1cm下がったところに縦の中心線と平行に糸印を入れる。
- ④ ①から6cm下がったところに縦の中心線と平行に糸印を入れる。
- ⑤ ①から11cm下がったところに縦の中心線と平行に糸印を入れる。
- ⑥ ③と④、④と⑤の間を三等分して糸印を入れる。
- ⑦ 横の布幅の中心に糸印を入れる。
- ⑧ ⑦から15cmのところに横の中心線と平行に糸印を入れる。
- ⑨ ⑦から15cmのところに横の中心線と平行に糸印を入れる。
- ⑩ ⑦と⑧を半分にして糸印を入れる。
- ⑪ ⑦と⑨を半分にして糸印を入れる。
- ⑫ 横の⑦と⑩、⑦と⑪で区切られた④の糸印を3等分する。それぞれ中心⑦から離れた方に短い糸印を入れる。⑥の上と⑥の下の糸印は2等分した糸印を入れる。
- ⑬ ⑧と⑩、⑨と⑪の間の糸印を3等分する。⑦に近い方は④の糸印上に入れ⑦から遠い方は上の⑥から下の⑥までの長い糸印を入れる。

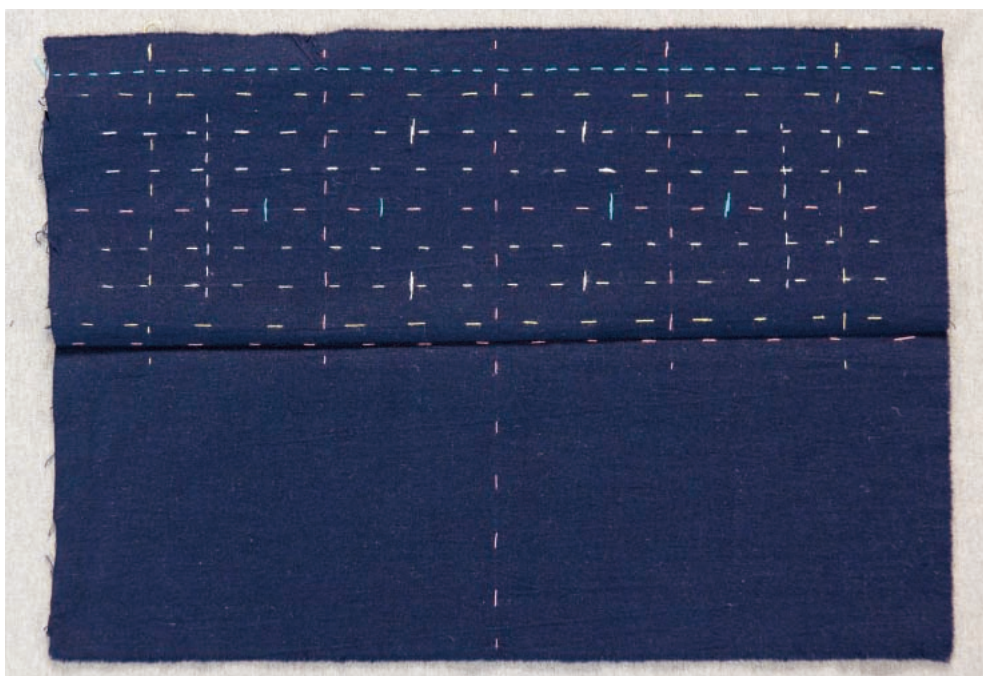
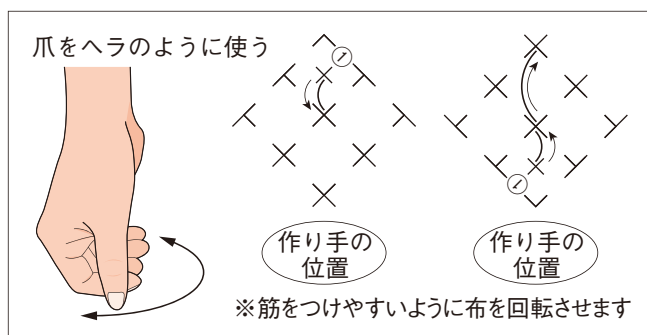


写真4を裏返した状態

写真5

○文様の下縫い（案内線）を入れる

- ⑭ 糸印を入れ終わった布を裏かえして（写真5の状態）縦の糸印と横の糸印が交差する点と点を結ぶように親指の爪を使って曲線を描いていく。筋をつけては、下縫いし、又、筋をつけては下縫いします。その部分部分で布を回転させてつくる。（図1、写真6・7）ヘラを使って筋をつけてもよい。



『アイヌ刺繍入門 チヂリ編』より

図1

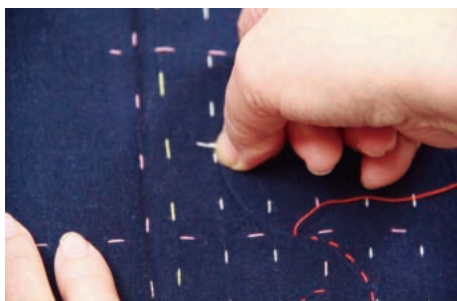


写真6

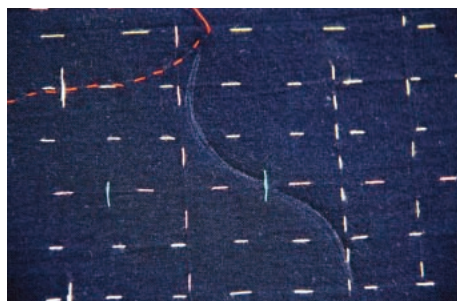


写真7

- ⑮ ⑭でつけた印に沿って下縫いを縫いつけていく。(写真8)

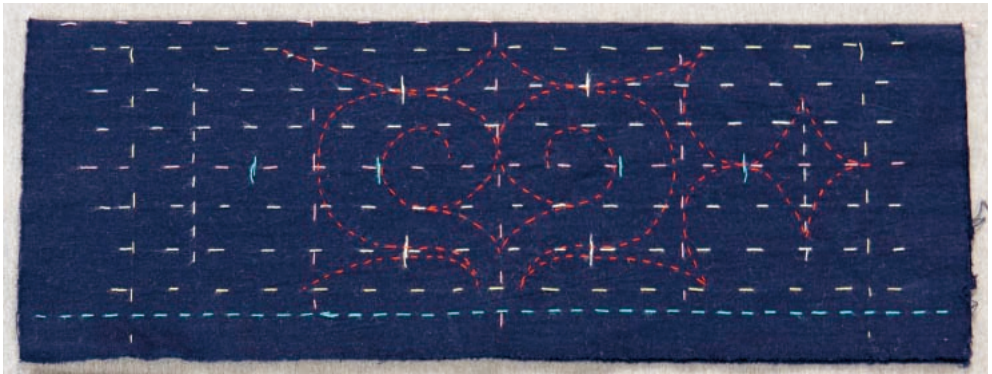


写真8

- ⑯ 全ての下縫いを縫いつけたら、上下の糸印を残してすべて抜く。(写真9)

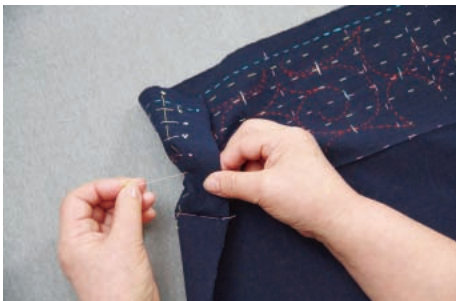


写真9



下縫いを入れ終わり、糸印を抜いた状態。

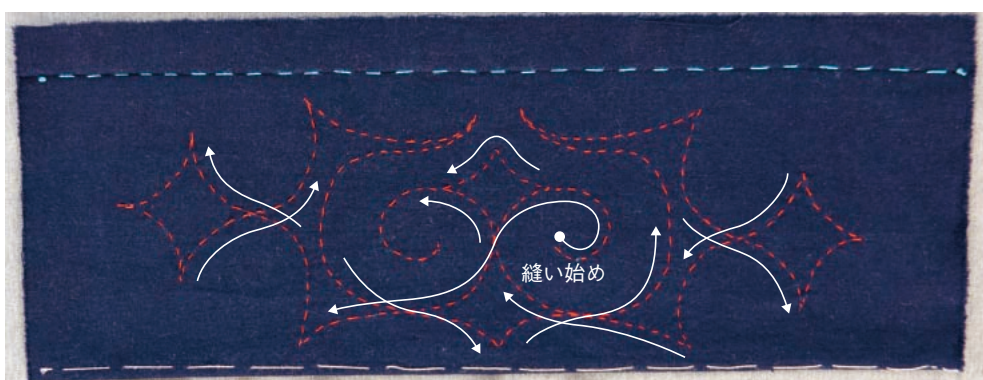
写真10

2 イカラリ

イカラリはアイヌ語で「イ（それ）・カ（上）・ラリ（押さえる）」という意味です。「カスケラリ」あるいは「カシケラリ」という地域もあります。

芯糸を表に出して、その芯糸を押さえ糸でからめていきます。運針の種類のひとつでコーチングステッチと同じです。

中央右側にあるモレウの先端から芯糸を出し、その芯糸をイエシンニヌ（下縫い）の真上に置きながら押さえ糸で細かく絡み止めていく。この文様は、ほぼ全体が一筆書きになっていて、中央上部にある菱形の上部の一部だけ後で付け足す。



矢印のとおり縫い進める

写真11

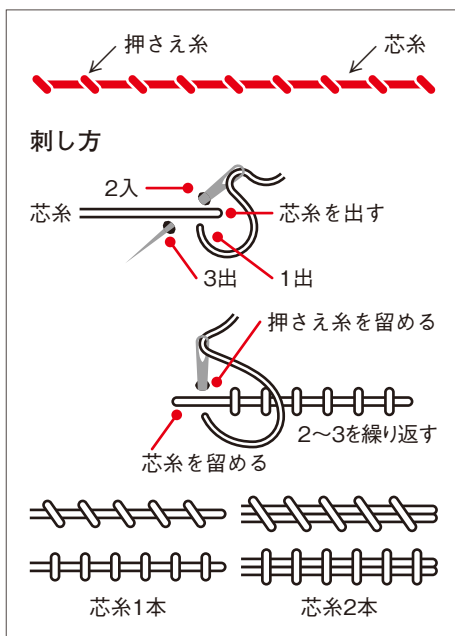
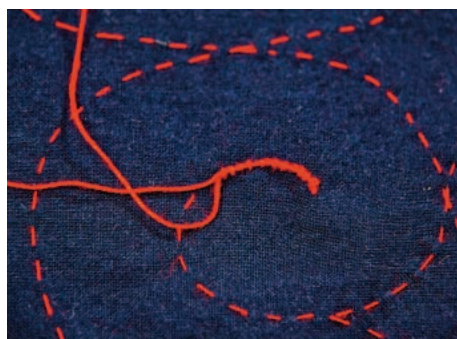


図2



イエシンニヌからはずれないように刺していく 写真12

① 文様の角や向きを変える時の処理＝ツノ（キラウ）の作り方

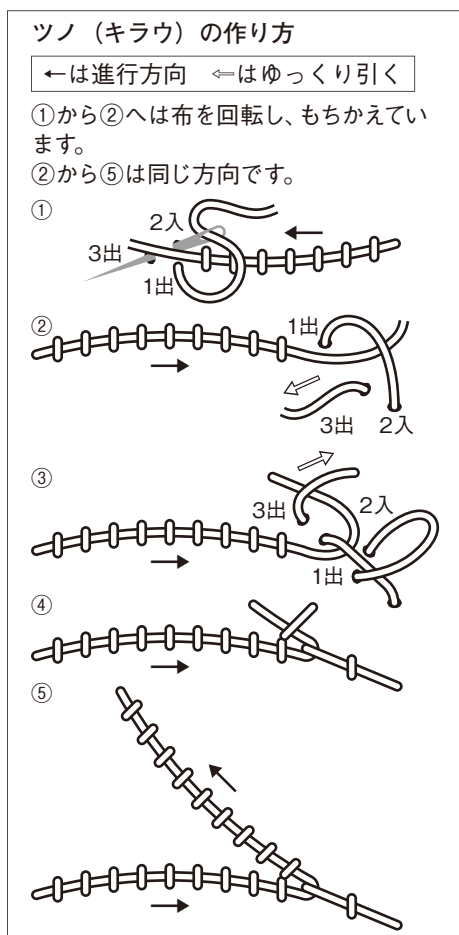


図3



写真13



写真14

② 先に刺繍した文様を乗り越える時の処理

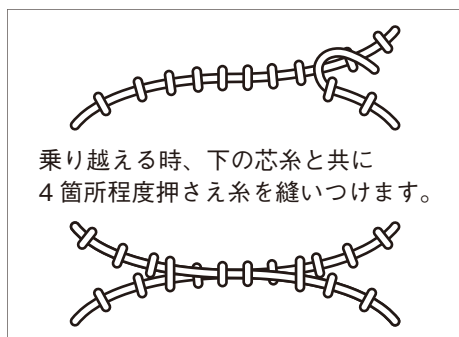


図4

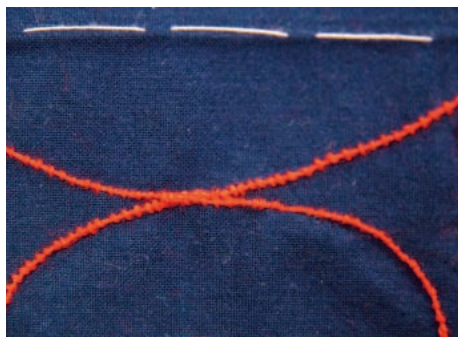


写真15

3 オホ

イカロリの外周にオホ（チェーンステッチ）による刺繍を入れる。オホは文様の角ではなく、直線、もしくは緩やかな曲線の途中から刺し始める。オホは外周をひとまわりする。ひし形などの内周は外周を刺し終えてから刺します。

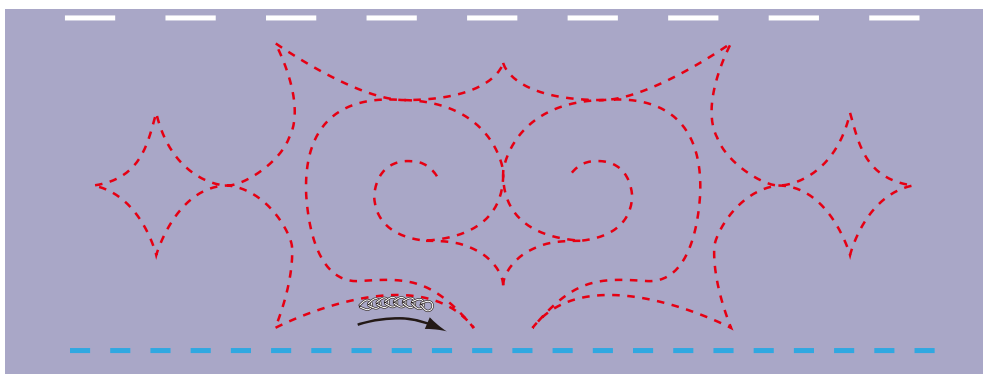


図5

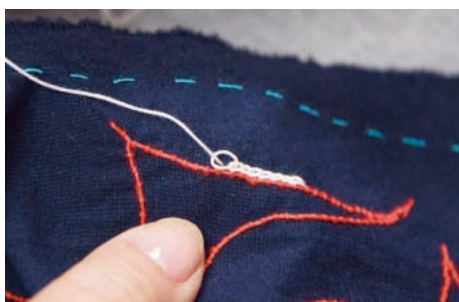


写真16

- ① 文様の角や向きを変える時の処理＝キラウ（ツノ）の作り方

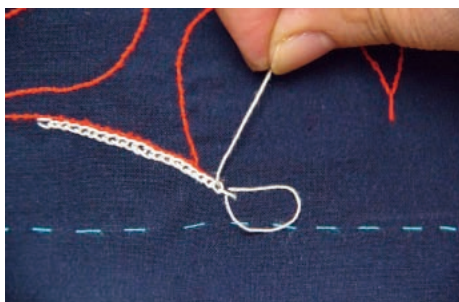


写真17

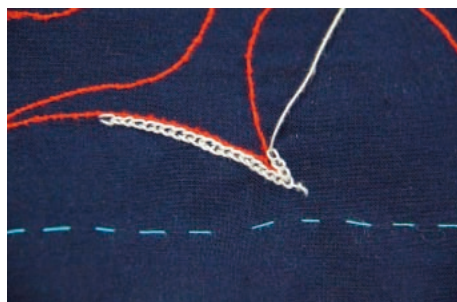


写真18

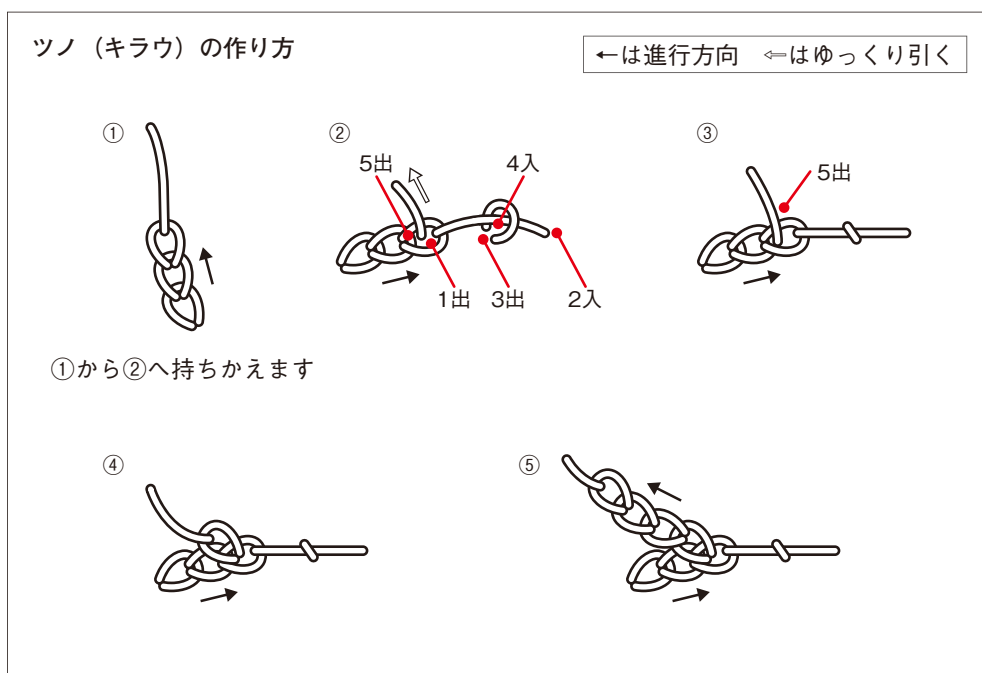


図6

中心部には大きめなキラウを入れる。

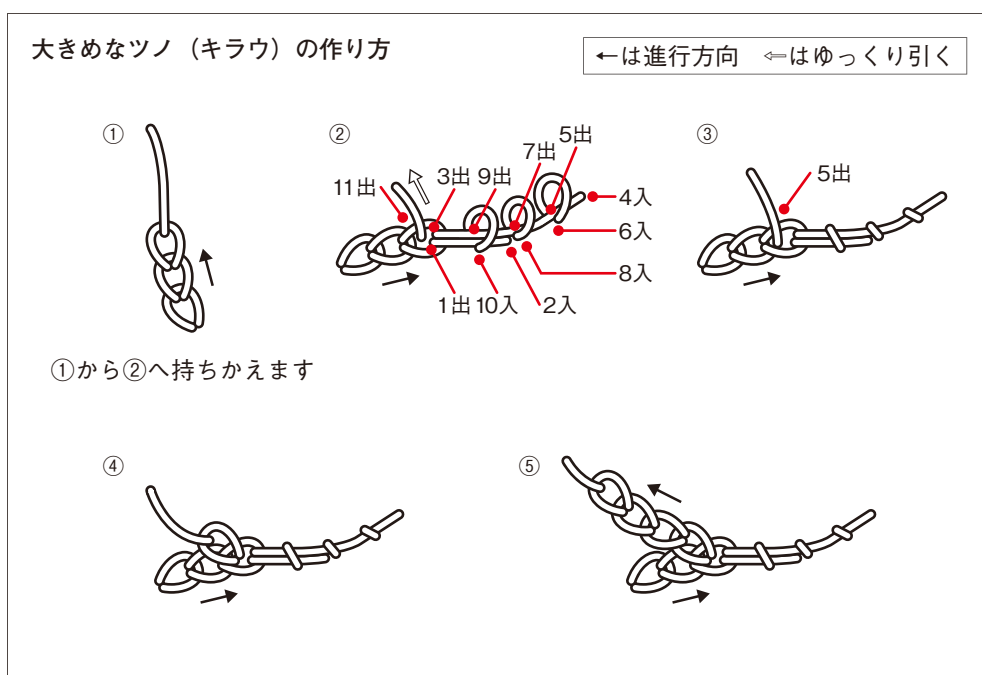


図7

- ② オホがイカラリの外周を一周し、最初のオホのところまであと一つのところまできたら、最初のオホの目に糸を潜らせて、到着したオホの中に糸を戻して裏へ針を入れ、一重結びで糸をとめます。ひし形などの内周も同様です。

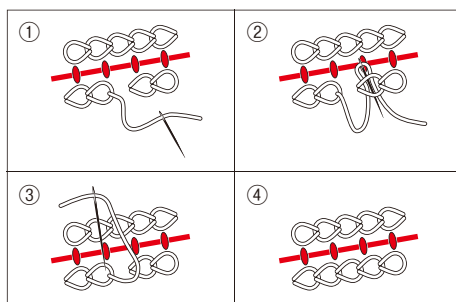


図 8

- ③ 文様の内側に入れるオホの角の処理

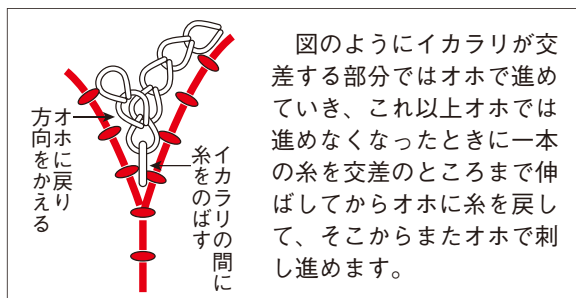


図 9

4 完成

- ① 文様の刺繍を入れ終えたら布を裏返して筒状になるように一部を残しナミ縫いで縫いつけていく。図10の点線はナミ縫いをあらわしている。

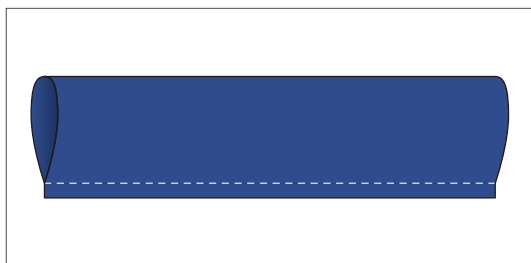


図10



写真19

- ②縫い付けしないで残しておいた口から布を引き出すようにして布を反転させる。



写真20

③口を閉じる

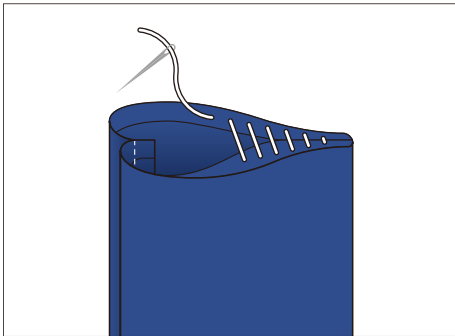


図11

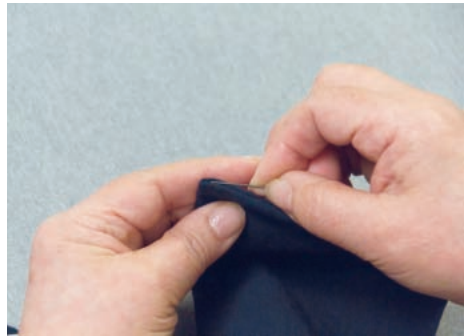


写真21

④完成

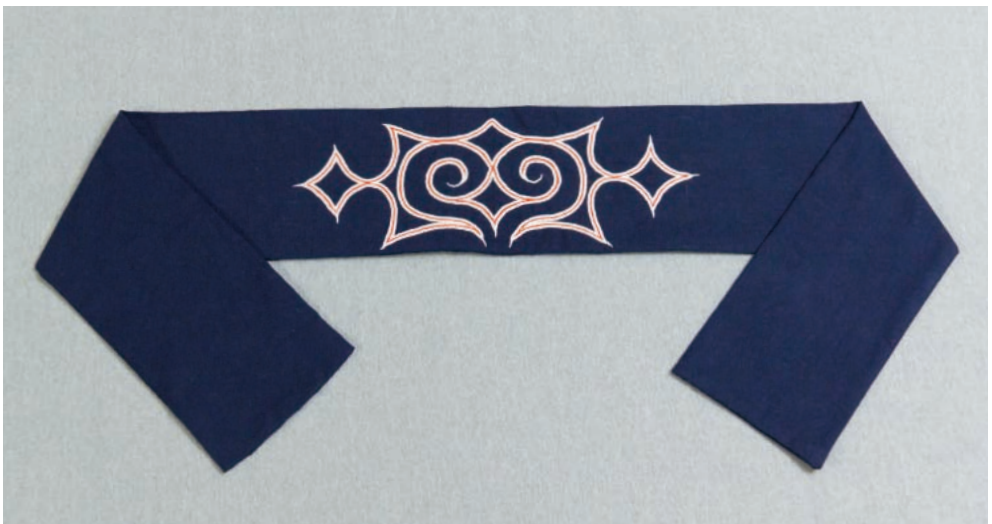


写真22



写真23

レクトウンペ(首飾り)



写真24

レクトウンペというのは「レクッ (のど)・ウン (につく)・ペ (もの)」という意味で、女性の装身具の一つです。

レクトウンペには、左右に結び紐があり古銭が1個から数個つけられたもの、紐の中央に垂らした布に刀のツバやメダルのような金属の飾られたもの等があります。

今回は、現代でも利用可能のように飾りにビーズを使い、結び紐にねじった紐をつけたレクトウンペを製作します。



写真25

材料・用具

〈本体〉

・ 木綿布（紺シーチング） タテ8cm、ヨコさ33cm 1枚

・ ビーズ

〈結び紐〉

・ 木綿布（紺シーチング） タテ3～3.5cm、ヨコ24～25cm 2枚

・ 赤木綿布 タテ3～3.5cm、ヨコ24～25cm 2枚

※結び紐用の生地には薄手のものの方が作りやすい。

〈共通〉

・ 紺刺子糸

・ 絹糸

・ しつけ糸

・ 溝大くけ針

・ 細見の針



写真26



写真27

製作

1 結び紐

- ① タテ3cm、ヨコ25cmの紺の布と赤の布を重ねて半分に折り布の中心に折り目をつけて、その折り目に沿って粗くしつけ縫いをする。同じものを2枚製作する。



写真28

- ② 布の端から布の幅の半分である1.5cmのところに印をつけ、その印と端の中心とを結ぶように爪をつかって曲線を描き半円の印をつける。



写真29

- ③ 半円の印をつけた反対側の端には、中心から7mm～8mmのところに印をつけその印と半円の外周とを結ぶように爪で印をつける。
- ④ ②と③でつけた印に沿って裁断する。

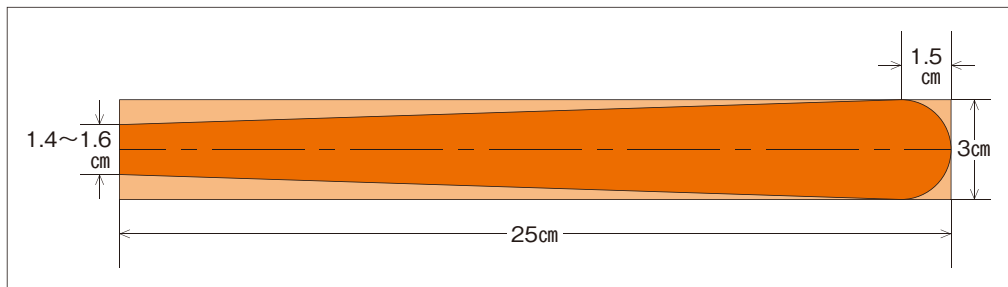


図12

※直接布に印をつけるのが難しければ型紙を作り、その型紙に沿って裁断する。

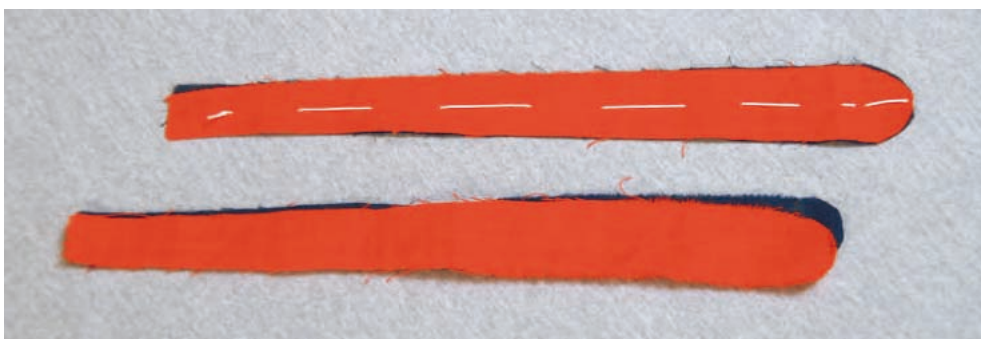


写真30

- ⑤ 裁断したら、しつけ糸を抜き、紺と赤の布を直角に重ね、円の4分の1だけ縫いつける。



写真31

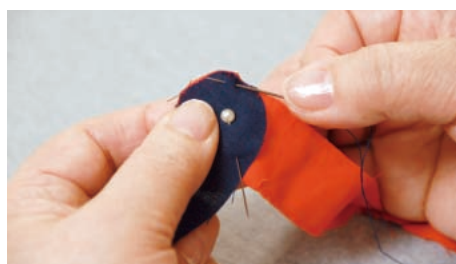


写真32

- ⑥ 紺の布の⑤の縫い始めのところに白い糸を通し、赤の布から戻す。白い糸は布に通すだけにし、布の長さより長くなるようにして切っておく。



写真33



写真34



写真35

- ⑦ 縁を合わせて2～3mmの縫代をとり半円になっているところから少しずつ縫い合わせていく。

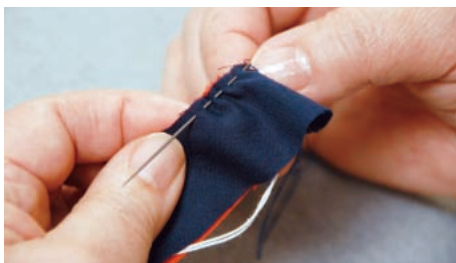


写真36

- ⑧ ⑥で通した白い糸が内側に挟みこんで、反対側の縁を⑦と同様に半円の方から2～3mmの縫代をとり少しずつ縫い合わせていく。ただ、⑦に比べるとしわが寄っていて、そのままでは縫いづらなので待ち針を使って少しずつ縫い進める。



写真37



写真38

- ⑨ 両縁の縫い付けが終わったら中に挟みこんである白い糸を少しずつ引いて布を反転させる。



写真39



写真40



写真41

2 本体

- ① タテ 8 cm、ヨコ 33cmの布を半分に折り、1 cmの縫代をとり筒状になるようにナミ縫いする。



写真42

- ② ナミ縫いが終わったら、全体を表にかえて、縫い目が下になるように指でよく押さえつける。
この時アイロンを使ってもよい。折りクセがついたら両端を 1 cm ほど内側に折りかえておく。



写真43



写真44



写真45

- ③ 縦ヨコをそれぞれ二つ折りにして中心に印をつけ、そこに糸印をつける。



写真46

- ④ 並べると全体の長さが24.6cmになる飾り用のビーズを中心に縫いつけるため、中心の糸印から12.3cmのところの裏側から絹糸を出し、丸ビーズと長ビーズが交互になるようにビーズの穴に糸を通していく。

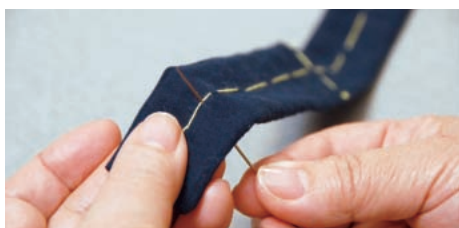


写真47

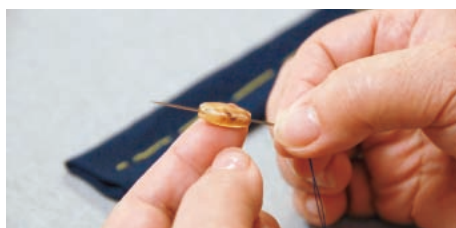


写真48

- ⑤ 全てのビーズに糸を通したら絹糸を裏側に入れ、ビーズが一直線に並ぶように絹糸を引いて、ゆるまないようにして仮留めする。



写真49

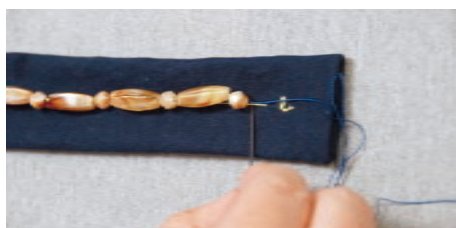


写真50



写真51

- ⑥ 糸を通しただけだとビーズの重みで作業が難しいので、糸が動かないようにビーズの中間を数カ所待ち針で押さえる。



写真52



写真53

- ⑦ 絹糸の糸玉の隣から針を刺し、刺子糸を表に出す。



写真54

⑧ ビーズを留める

- ・ 刺子糸を丸ビーズの穴に通して、すぐに糸を裏側へ出す。
- ・ 裏側に出た糸はその場で玉結びにして、また、糸を表側に出す。
- ・ 表側に出た糸を長ビーズの穴に通して、すぐに糸を裏側へ出す。
- ・ 裏側に出た糸はその場で玉結びにして、また、糸を表側に出す。

※この繰り返しでビーズを布に留めていく。この方法ではビーズを一個づつ、糸玉を作って留めているので、どこか1カ所糸が切れたとしても全体がバラバラになることはない。



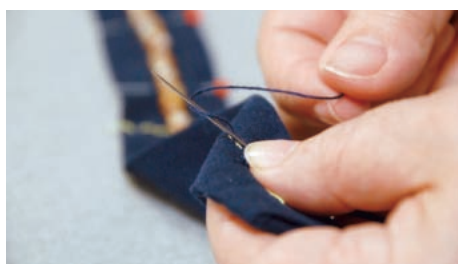
丸ビーズに糸を通す

写真55



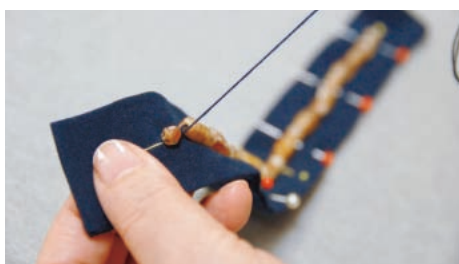
裏側に糸を通す

写真56



糸玉を結ぶ

写真57



表側に糸を通す

写真58



長ビーズに糸を通す

写真59

⑨ 全てのビーズに糸を通し終えたら糸印の糸とビーズを仮留めした絹糸を抜き取る。



写真60

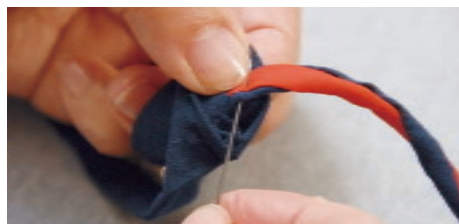
3 本体と結び紐の結合

- ① 本体の端に結び紐の根元を差し込んで仮留めする。



本体に結び紐を差し込む

写真61



本体に結び紐を縫いつける

写真62

- ② 本体の口をすくい縫い（かがり縫いでもよい）で閉じる。この時結び紐を本体にしっかりと縫い付ける。

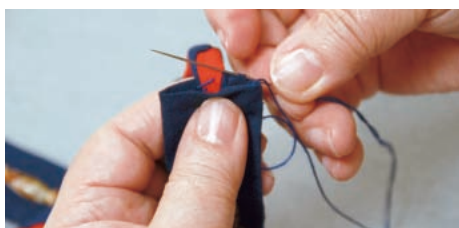


写真63

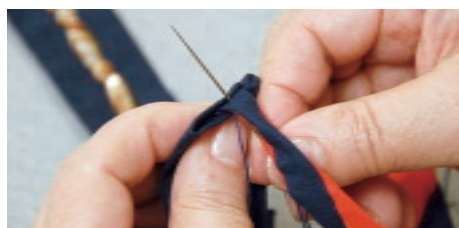


写真64

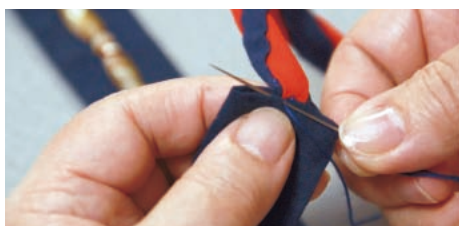


写真65



写真66

4 完成



写真67

テクンペ(手甲)



写真68

テクンペというのは「テッ (手)・ウン (についでいる)・ペ (もの)」という意味で、狩猟や畑仕事の時、旅の出る時などに手を保護するため身につけた手甲のことです。

きれいな刺繍が施されているものもありますが、儀式の席で身につけることはなく、あくまでも労働や日常生活の範囲で使われていました。

形は、筒状のものや親指が離れたもの、手首に巻きつけるものなどがあります。

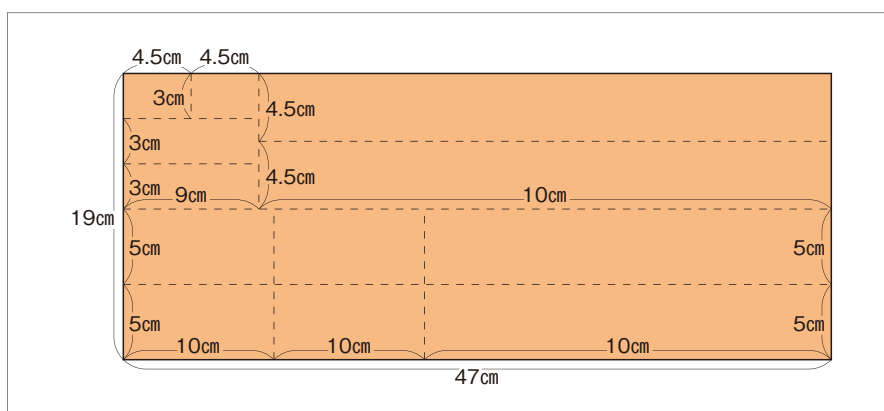
今回は手首に巻きつけるテクンペを作ります。

材料・用具

- ・ 木綿布 (紺シーチング) : 表布用 タテ 18cm、ヨコ 26cm 2 枚
- ・ 木綿布 (花柄) : 裏布用 タテ 18cm、ヨコ 26cm 2 枚
- ・ 木綿布 (茶模様付) : 縁用 タテ 19cm、ヨコ 47cm 1 枚
- ・ 木綿布 (紺シーチング) : 紐用 タテ 10cm、ヨコ 45cm 1 枚
- ・ 木綿糸
 - 紺色
 - 白色
 - 赤色
- ・ しつけ糸
 - 白色
- ・ 針
- ・ はさみ



写真69



縁取り用布を切り分ける

図13

製作

1 本体の裁断

- ① 表用の布と裏用の布を重ねて半分に折って布の中心となるところに糸印をつける。この糸印は表布と裏布を合わせて縫いとめておく。
- ② 布の左右2分の1のところに糸印をつける。

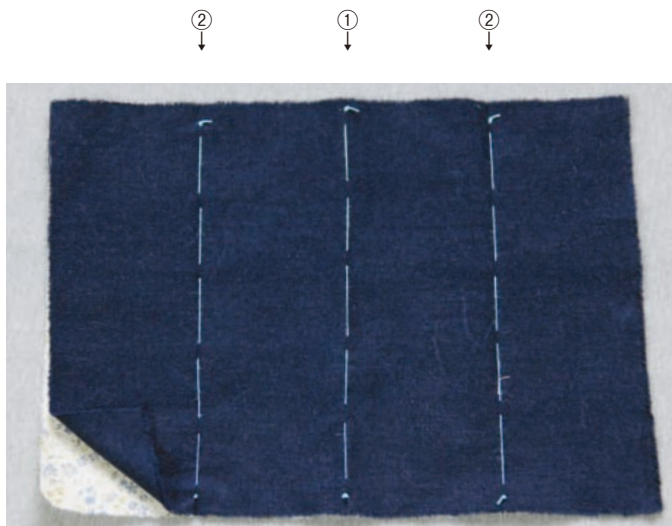


写真70

- ③ タテに3等分して糸印をつける。

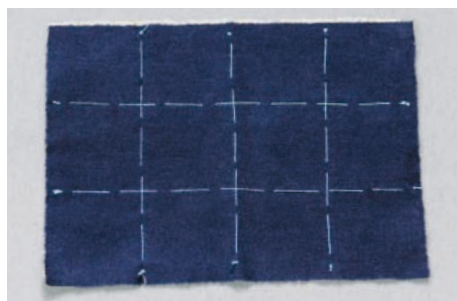


写真71

- ④ 下の糸印から約1cmのところに印をつけ、その印と中心の糸印の頂点とを直線で結ぶ糸印をつける。

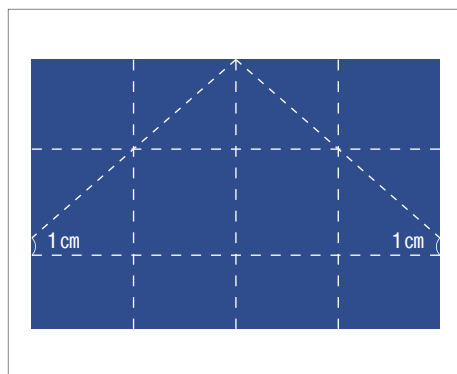


図14

- ⑤ ④でつけた斜めの線に沿って爪を使って曲線を描いていく。
 ※写真73は曲線が分かりやすいように赤い糸で糸印をつけている。



写真72

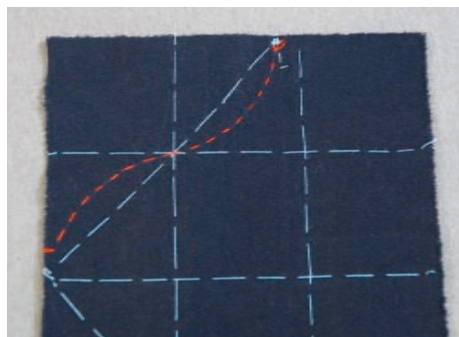


写真73

- ⑥ 布を半分に折り、重ねあわせて待ち針と留める。そして、④でつけた曲線の印に沿ってハサミで切る。



写真74



写真75

- ⑦ 待ち針を抜いて布を開くと手甲の形になっている。



写真76



写真77

2 ち＝乳（和裁用語） ～中指を通す紐

- ① 図13のとおり切り分けた茶模様付の布のうち、3 cm×9 cmの布を中表にして半分に折り、ナミ縫いをして筒状にする。
- ② 縫代の端に長めの赤糸をつける。
- ③ 縫代につけた赤糸を紐の中を通す。
- ④ 布表が外側になるように布を反転させながら赤糸を引き出していく。
- ⑤ 全て反転したら紐状の「ち」になる。
- ⑥ 重ね合わせた布がずれないように本体の先端を縫い合わせる。写真79の赤糸部分のことである。



写真78



写真79

- ⑦ 本体裏側の先端に「ち」をしっかりと縫いつける。この「ち」の根元は4～5ミリ間をあける。



写真80



写真81

3 縁をつける

[下部]

- ① 27cm×5cmの茶模様付の縁用の布を本体の下の縁に合わせて、7mm程度の縫代をとって縫いとめていく。



写真82



写真83

- ② 本体を表にかえして、縁用の布を縁に沿ってきれいに倒していく。



写真84



写真85

- ③ 15mmから18mmの幅になるように倒して布を押さえて白い糸でかがり縫いをしていく。

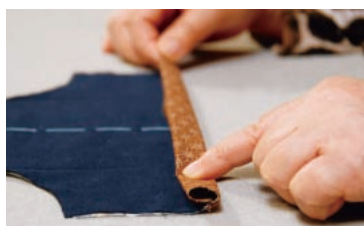


写真86

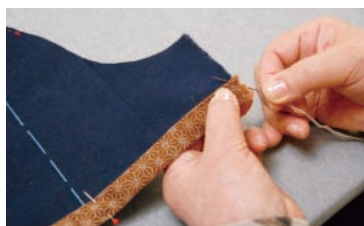


写真87



写真88

〔上部曲線部〕

- ① 本体を裏がえしにして、曲線のはじまりの部分から縁用の布（38cm×4.5cm）の縁と本体の縁を合わせて、待ち針で留めていく。



写真89

- ② 縁から4～5mm位の縫代をとって、5～7mm間隔のナミ縫いで縫っていく。



写真90



写真91

- ③ 曲線部分は1cm間隔位で待ち針を打って縫い留めていく。「ち」を間に挟んで縫い留めていく。



写真92



写真93

- ④ 曲線に縫い付けた縁用の布は立っているが、これを表にかえしていく。



写真94



写真95

- ⑤ 縁に沿って折って、指で押さえてなじませる。さらに15mm位のところで布を内側に折り込み、先端部の手前まで待ち針で留めていく。



写真96



写真97

- ⑥ 待ち針でとめた布を白い糸でかがり縫いをしていく。



写真98

- ⑦ 曲線部はよく折って布をなじませ、真ん中の「ち」のあるところを待ち針で留め、つづいて縫い終えたところとの間に待ち針を打っていく。曲線部はしわになったり引きつりやすいが、なるべくしわやひきつりにならないように待ち針を打っていく。



写真99

- ⑧ 待ち針でとめたところを白い糸でかがり縫いをしていく。

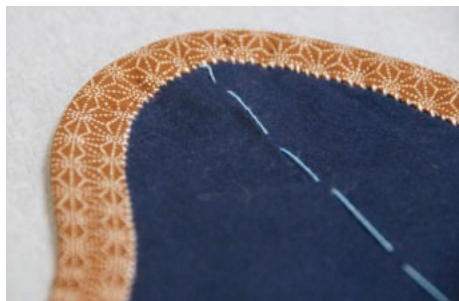


写真100

- ⑨ 残りの部分も同じように待ち針で留めて、かがり縫いをしていく。



写真101

〔側面〕

- ① 本体を裏返しにして、10cm×5cmの縁用の布の縁と本体の縁を合わせ、下が7mm位、上が1cm位飛びだす位のところに合わせ、5mm位の縫代をとってナミ縫いで縫っていく。



写真102

- ② 縫い終わったら本体をかえして、縁用の布の両端を折ってなじませる。



写真103



写真104

- ③ 縁に沿って布を倒し、18mm位のところで布を内側に折り込み、指で押さえてよくなじませる。そして、待ち針で留める。



写真105

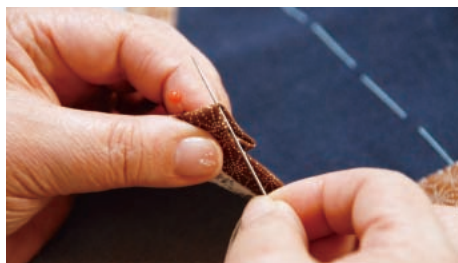


写真106

- ④ 内側に折り込んだ縁をかがり縫いで縫い合わせる。

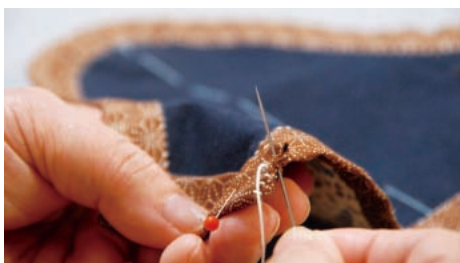


写真107



写真108

- ⑤ 直線部をかがり縫いで縫い合わせる。



写真109

4 刺繍

- ① 周囲を縫い終えた本体に文様を入れるための糸印をつくるため、上下・左右の中心から5 cmのところに糸印をつける。



写真110

- ② さらに5 cmの半分のところに糸印をつけ、1辺が2.5cmの糸枠のマス目をつくる。

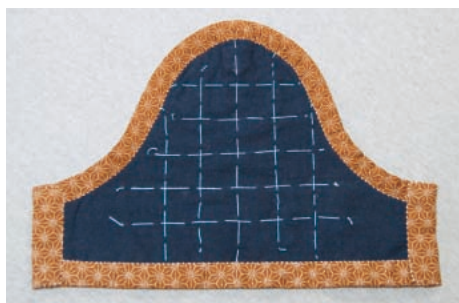


写真111

- ③ マタンプシに文様を描いた時と同じ様に、ツメを使って文様の曲線を描いていく。



写真112



写真113

- ④ ツメで印をつけた文様に沿って赤い糸で下縫いを入れる。



写真114

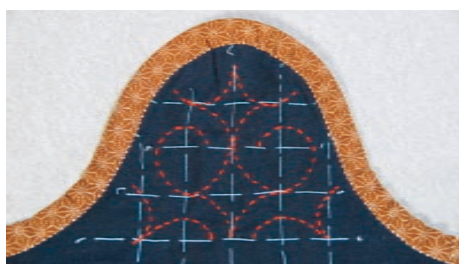


写真115

- ⑤ 赤い糸の下縫いを入れ終わったら、一番下の糸印を除き、糸印を抜き取る。



写真116

- ⑥ 赤い糸の下縫いに沿って白い糸でチェーンステッチで文様を入れていく。



写真117



写真118



写真119

※通常の「オホ」(写真120の右) の他に少し幅を広めにとる「パラオホ」(写真120の左) もある。



写真120

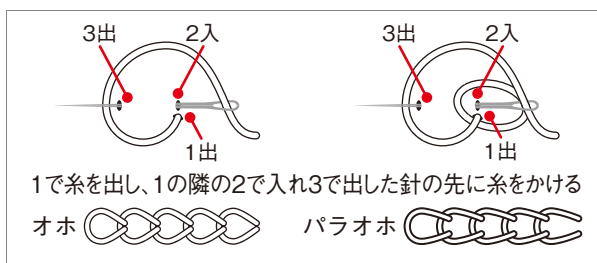


図15

5 紐

- ① 5 cm×45cmの紐用の布を半分に折って、ナミ縫いで筒状にして表にかえす。
- ② 飾り布を半分に折って5 mm位の縫代で筒状にする。
- ③ 飾り布に①の紐の端を差し込んで縫いつける。
- ④ 飾り布の口を5 mmほど折りかえして、口を閉じるように縫い合わせる。



写真121

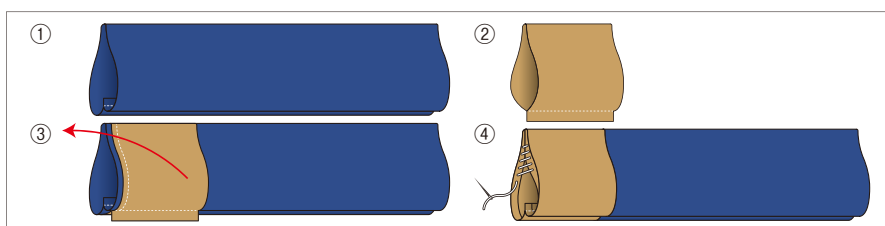


図16

6 仕上げ

- ① 紐の飾り布の無い方の先を5 mm位折って、本体に縫いつける。この部分は外れないように、しっかりと縫いつける。



写真122

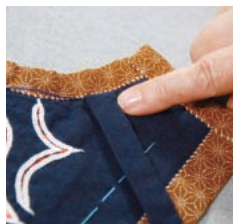


写真123

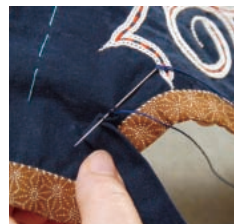


写真124

- ② 指分3本位のゆりみをとって糸印に沿って紐を本体に縫いつける。



写真125

- ③ 中央部の3分の1位の範囲を、指1本分の幅で千鳥がけで紐を留めていく。



写真126



写真127

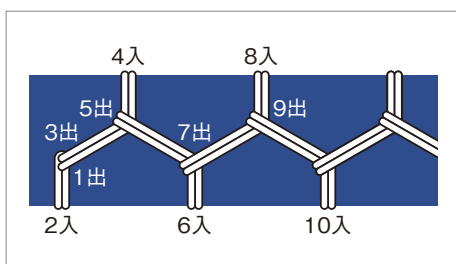


図17

7 完成



写真128

ホシ(脚絆)



写真129

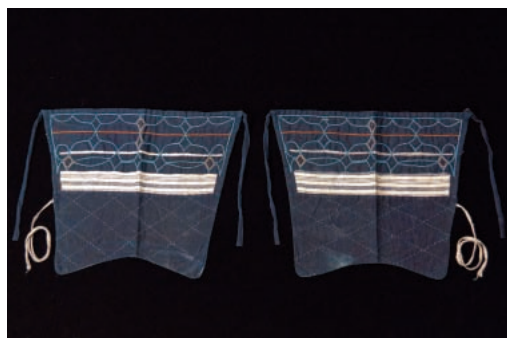


写真130

ホシは脚絆のことです。狩猟や畑仕事の時、旅に出る時などに脛を保護するために使いました。

きれいな刺繍が施されているものもありますが、儀式の席で身につけることはなく、あくまでも労働や日常生活の範囲で使われていました。

筒状のものや巻きつけて使うものがありますが、今回は、巻きつけるタイプでカパラミツにイカリを施したものを製作します。

材料・用具

・表地	木綿布（紺シーチング）	タテ39cm、ヨコ30cm		2枚
・裏地	木綿布	タテ39cm、ヨコ30cm		2枚
・切伏用布		タテ16cm、ヨコ36cm		2枚
※切伏用布は柔らかい布が適している。				
・模様となる布	茶	タテ3cm、ヨコ2.5cm		4枚
・模様となる布	赤	タテ3.5cm、ヨコ9.5cm		2枚
・紐の先をくるむ布		タテ3cm、ヨコ3cm		8枚
・紐（上）用の布		タテ5cm、ヨコ53cm		4枚
・紐（下）用の布		タテ5cm、ヨコ50cm		2枚
・木綿糸				
紺色				
白色				

製作

1 紐(上) 左右それぞれ2本

- ① 5cm×53cmの紐用の布を半分に折って、ナミ縫いで筒状にして表にかえす。片側の先端には飾り布を半分に折って5mm位の縫代で筒状にして、紐の端を差し込んで縫いつける。



写真131



写真132

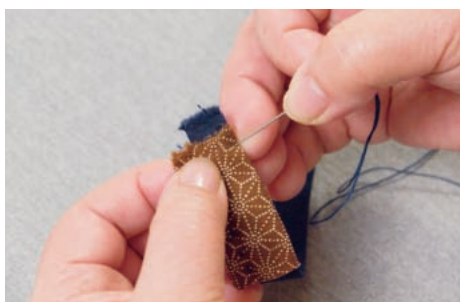


写真133



写真134

- ② 飾り布を表にかえして、布の先をすこし内側に折りまげて口を閉じるように縫い合わせる。
※詳細は19ページの③口を閉じるを参照



写真135

2 紐(下) 左右1本ずつ

- ① 紐(上) と作り方は同じだが、飾り布を紐の両端に縫いつける。

3 本体

- ① 表地を半分の折って、中心に糸印をつける。

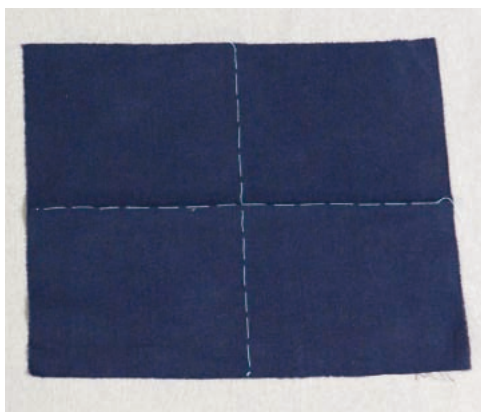


写真136

- ② 表地と裏地を重ねて、上側に1 cm程度の縫代をとってナミ縫いで縫いつける。



写真137



写真138

- ③ 縫い合わせた表地と裏地を一度開き、間に紐（上）を間に挟み、右側の3分の1までナミ縫いで縫いつける。紐の部分は特にしっかりと縫いつける。



写真139



写真140

- ④ 下の右端から指2本分のところと縫いつけた3分の1のところまで折り目をつけて、その折り目に沿ってナミ縫いで縫いつける。

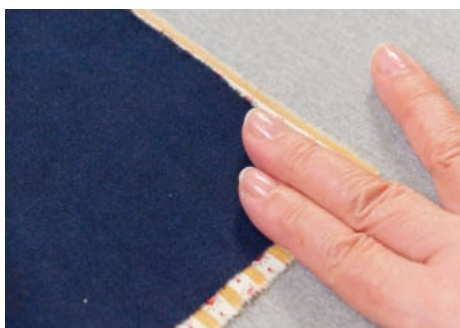


写真141



写真142

- ⑤ 紐が内側に入るように合わせて、③を同じように左側の右側の3分の1までナミ縫いで縫い合わせる。紐の部分は特にしっかりと縫いつける。図18の上部の点線は写真143の紐が入れていることを示す。



写真143

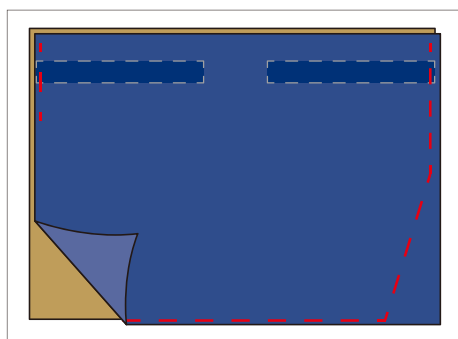


図18

- ⑥ 下の左端から指2本分のところと縫い合わせた3分の1のところまで折り目をつけて、その折り目の上側の半分くらいから下側に向け折り目に沿ってナミ縫いで縫いつける。④と同じ。
- ⑦ 下側を1cm程度の縫代をとってナミ縫いで縫いつける。

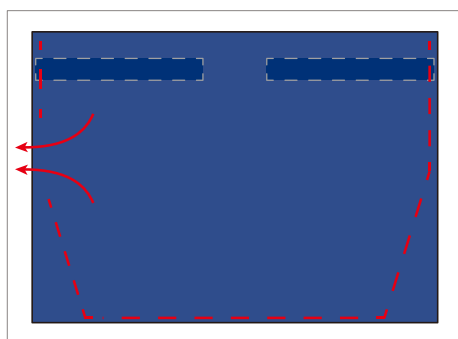


図19

- ⑧ 斜めに縫った部分を左右ともに切り離し、⑥で縫い合わせずに空けておいたところから表にかえす。



写真144



写真145

- ⑨ 表にかえしたら、空いている口を閉じるようにすくい縫いで縫いつける。

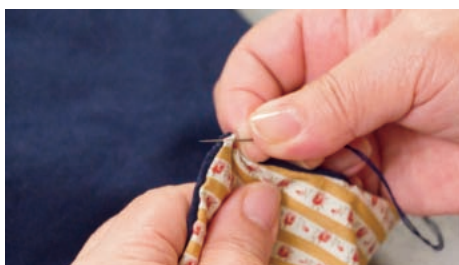


写真146



写真147

4 カパラミプ (切伏)

- ① 切伏とは切り分けて伏せ置いた布をさす。ここでは置き布と表現している。この文様を左右対称にするため、まず切伏用布を半分に折る。

半分に折った布を縫代になる分を考えながら半分、さらに半分と折って行って、折り目をつける。その折り目に沿って糸印をつける。糸印をガイドに切り込み線を鉛筆で書き込む。鉛筆の線上を切るのので鉛筆の線は表に出ない。



写真148

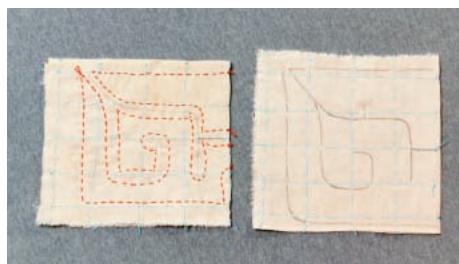


写真149

写真149の右は鉛筆で書いた線である、それによって実際の形となる線を左の赤点線で示している。

- ② 鉛筆で書いた切り込み線に沿って布を切る。布を切った、糸印は抜き取っておく。

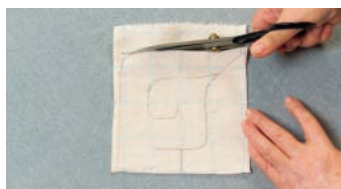


写真150



写真151



写真152

- ③ 裁断した布を中心線に合わせて本体の上に置き、置き布がずれないように布の中心をしつけ糸で留める。



写真153



写真154

- ④ 置き布の中心の一部を幅5mm位切り取る。このとき、本体を切らないよう気をつける。



写真155



写真156



写真157

- ⑤ 置き布の下に端を折った赤い布を入れて、動かないように待ち針で留める。

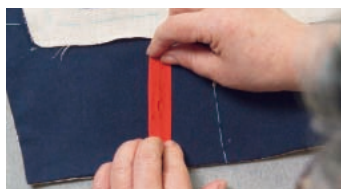


写真158



写真159

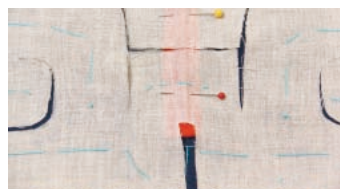


写真160

- ⑥ 置き布の端を5mm位内側に折って、3mm位の間隔でかがり縫いで縫いつけていく。

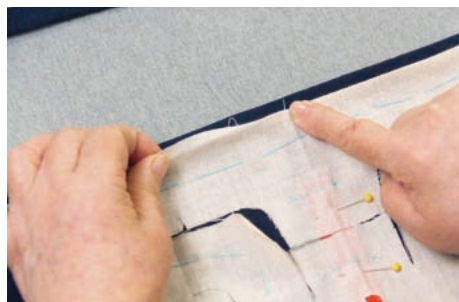


写真161

- ⑦ 文様の先端部分では、飛び出した布は切り離し、キラウ（角）をつける。この時、置き布からほつれた糸が飛び出していたら針の先を使って内側に入れておく。

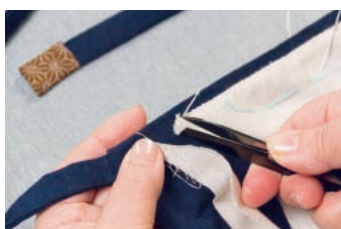


写真162



写真163



写真164

- ⑧ 文様の途中に丸い切り込みを入れるため、爪で印をつけて小さな切り込みを入れる。キラウ（角）をつけて丸く縫いつけていく。

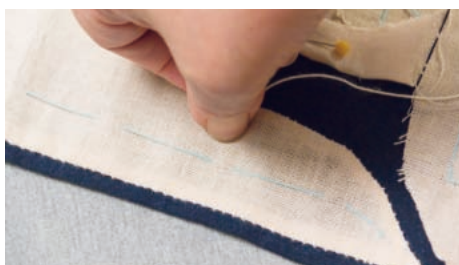


写真165



写真166



写真167



写真168

- ⑨ 茶の飾り布を白の切伏せて置いた布の両脇に置いて、布の端を5mm位内側に折って周囲を縫いつける。角の部分にはキラウ（角）をつける。

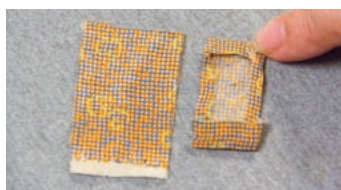


写真169



写真170



写真171

- ⑩ 切り込み部分を含め、白い置き布の周囲を全部縫い終えたら、表に出ている赤い布を縫いつける。

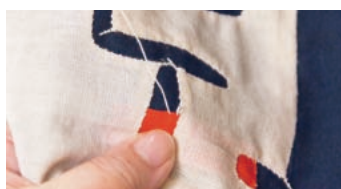


写真172



写真173



写真174

5 イカリ

- ① イカリを入れるためのイエシンニヌ（下縫い）を入れる。



写真175

- ② イエシンニヌに沿ってイカリを入れる。
※イカリの詳細は「マタンプシ」を参照



写真176



写真177

6 紐（下）の取り付け

- ① 刺繍をしていない部分の下から3分の1のところに印をつけ、そこに紐をおく。



写真178

- ② 千鳥がけで紐を留める。
※千鳥がけの詳細は「テクンペ」を参照

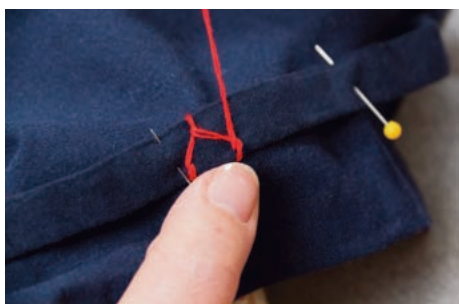


写真179



写真180

7 完成



写真181

マンタリ(前掛け)



写真182

マンタリは前掛けのことで、女性が身につけていたものです。これは和人が使用していたものを江戸時代の後期にアイヌが取り入れたものと考えられています。

テクンペやホシと同様に、きれいな刺繍が施されていても、儀式的席で身につけることはなく、あくまでも労働や日常生活の範囲で使われていました。

今回は木綿布で、本体には置き布とイカラリで刺繍を施したマエタレを作ります。

材料・用具

・ 本体 木綿布	タテ50cm、ヨコ41cm	1枚
・ 帯 木綿布	タテ10cm、ヨコ200cm	1枚
・ 帯をくるむ布 紺シーチング	タテ10cm、ヨコ4cm	2枚
・ 本体の縁用布 (狭) 紺シーチング	タテ21cm、ヨコ4.5cm	2枚
・ 本体の縁用布 (広) 紺シーチング	タテ35cm、ヨコ10.5cm	2枚
・ 本体の縁用布 (下) 紺シーチング	タテ10cm、ヨコ37cm	1枚
・ 置き布① 紺シーチング	タテ4cm、ヨコ70cm	2枚
・ 置き布② 紺シーチング	タテ4cm、ヨコ27cm	2枚
・ 置き布③ 紺シーチング	タテ4cm、ヨコ20cm	2枚
・ 置き布④ 紺シーチング	タテ4cm、ヨコ15cm	1枚
・ 木綿糸 (紺、薄紫)		
・ しつけ糸 (白、赤)		
・ はさみ		

製作

1 本体

- ① 本体を上下、左右ともに8等分してマス目状に糸印をつける。マス目はタテ6cm、ヨコ5cm位の長方形になる。

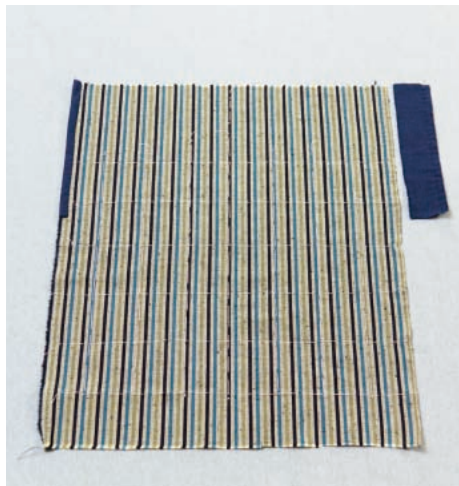


写真183

- ② 本体の上側の脇の部分に縁用の布（狭）を縫いつける。縫代は8mm程度。



写真184

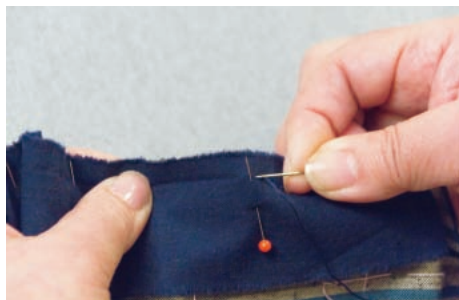


写真185

- ③ 裏にかえし、布を折り返して本体を包み込むようにして、かがり縫いで縫いつけていく。



写真186

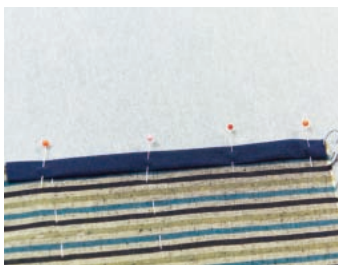


写真187



写真188

- ④ 本体下の裏側に縁用の布（下）を合わせて、ナミ縫いで縫いつけ、表にかえす。

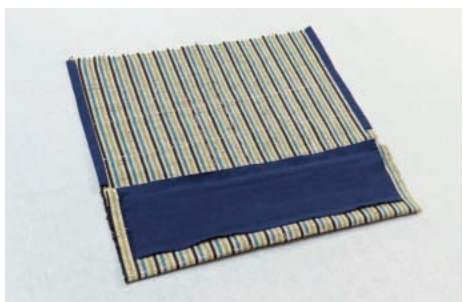


写真189

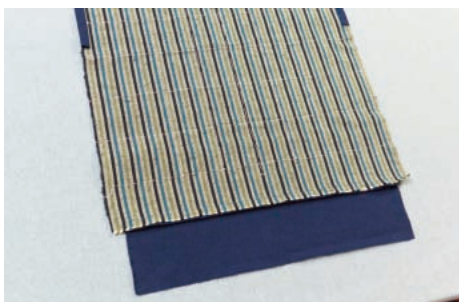


写真190

- ⑤ 縁用の布を一番下の糸印に合わせて折り返し、かがり縫いで縫いつけていく。



写真191

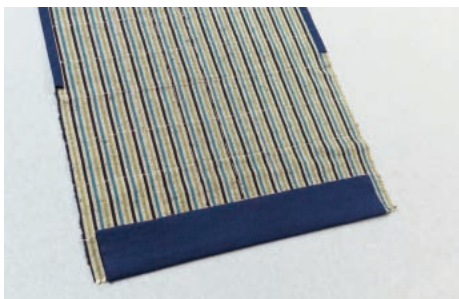


写真192

- ⑥ 本体の下側の縁に縁用の広い布を裏側から合わせて、縫代1cmのところをナミ縫いで縫いつける。この時、写真183～188で縫いつけた縁布から、写真192で縫いつけたその縁布までに縦の広い縁布を本体裏に合わせる。写真193ではあらかじめ上部を1cm折りかえして縫代1cmで縫合する。



写真193



写真194

- ⑦ ⑥が縫い終わったら表にかえして、下側の本体から飛び出している部分を本体の長さに合わせて折りまげる。そして縦の部分を布の端から1 cm位のところから内側に折り込む。縁布全体を表に返して、角の部分からかがり縫いで縫いつけていく。写真197のように置き布の角になる部分にはキラウ（角）をつける。



写真195

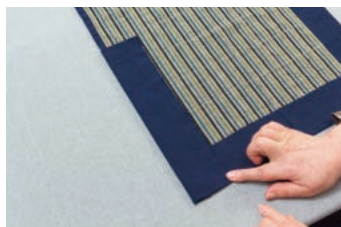


写真196

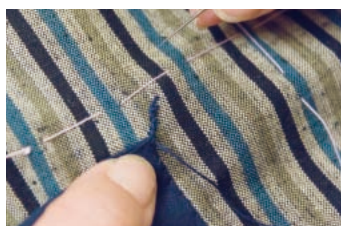


写真197



写真198

2 置き布

- ① 糸印を目印にして、置き布を入れるところに置き布の位置をきめる赤糸の糸印を入れる。



写真199

- ② 赤糸の糸印に合わせ、置き布の角を折って本体の上に置いていく。置き布はあらかじめ2.5cmの幅になるように縫代を折りかえしておく。



写真200

- 文様の始まり部分の布の折り方。折りかえし、方向展開の処理。

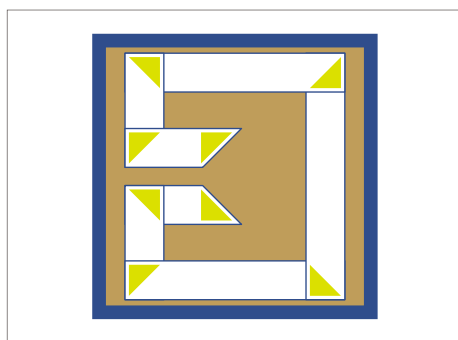


図20

- ③ 置き布を置いて待ち針で固定したら、置き布の外側からかがり縫いで縫いつけていく。角の部分にはキラウ（角）をつける。

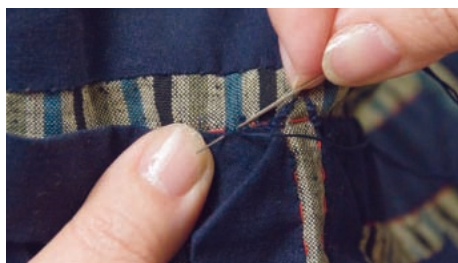


写真201

- 折り返し、方向展開する場所の縫い方。

- ① 置き布の外周を矢印の方向へかがり縫いで縫い進む。
- ② 次に内周をかがり縫いで縫い進む。最初の角にきたら角の方向に2針ほど大きく進む。そして、縦の置き布を内側にたおす。
- ③ 内側にたおした置き布の先端から針を出し内側に向かってかがり縫いで上の方に縫い進む。
- ④ 角のところでは、斜めに2針ほど進み、上の布を内側にたおす。そして、角から針を出し内側に縫い進む。

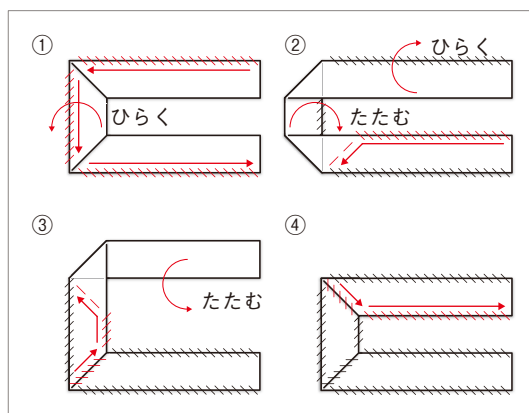


図21

3 イカラリ

- ① 置き布の縦の中心、横の中心に印を付け、幅の中心を通りながらその印と印を結ぶように曲線を描いてイエシンニヌを入れていく。

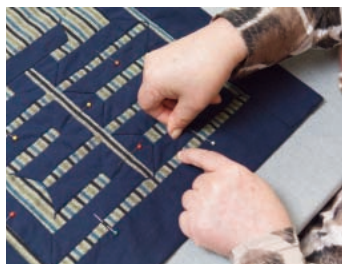


写真202

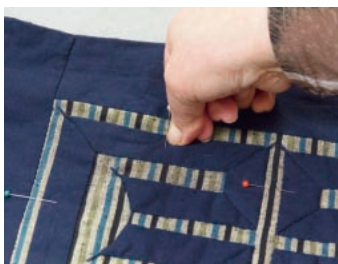


写真203

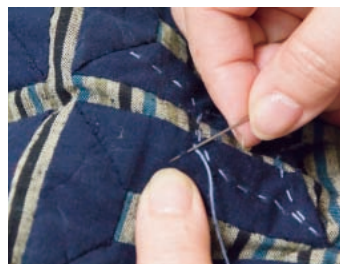


写真204

- ② イエシンニヌができれば、その上にイカラリをしていく。



写真205

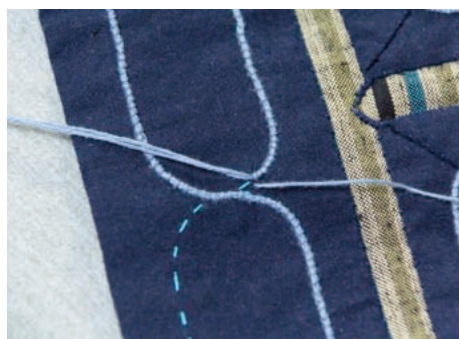


写真206

※イカラリの詳細は「マタンブシ」を参照

4 帯

- ① 帯用の布の中央部分に本体の幅だけ残して、筒状に縫い合わせて表にかえす。



写真207

- ② 本体の裏側から、本体の上端と帯の縫い合わせていない部分の布の端とを合わせてナミ縫いで縫いつけていく。縫代は1 cm位。



写真208

- ③ 表にかえして、帯用の布の縫いとめていない部分を縫い終わった部分の帯の幅に合うように内側に折り込み、かがり縫いで縫いつけていく。本体のつけ根の部分は特にしっかりと縫いつける。



写真209



写真210



写真211



写真212

- ④ 帯の両端を小さな紺の布でくるむ。



写真213



写真214



写真215

5 完成



写真216

おわりに

刺繍で描かれる文様は半分に折っては、また、半分に折って目印をつけるという原則はあるが、決まったものがある訳ではありません。文様はつくり手の数だけ存在するのです。

アイヌの女性は衣服や装身具を作る時、家族や大切な人のため、愛情を込めて文様を施しました。

かつて、定規も筆記用具の無い時代に、描きだされた文様はアイヌの創造力の豊かさと美的感性の高さを物語っています。

現在は、様々な素材や道具を使うことができます。受け継がれてきた文様と、新たに作りだされる文様から、アイヌ文様の美はさらなる広がりを見せるのではないのでしょうか。

参 考 文 献

- 萱野茂

1978年『アイヌの民具』『アイヌの民具』刊行運動委員会編 すずさわ書店

- 田村すず子

1996年『アイヌ語沙流方言辞典』草風館

- 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

2006年『アイヌ文様の美 線のいのち、息づくかたち』財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

- 財団法人アイヌ民族博物館

1993年『アイヌ文化の基礎知識』草風館

- 津田命子

2008年『伝統のアイヌ文様構成法によるアイヌ刺しゅう入門 チジリ編』津田命子

2009年『伝統のアイヌ文様構成法によるアイヌ刺しゅう入門 カバラミヅ編』津田命子

2011年『伝統のアイヌ文様構成法によるアイヌ刺しゅう入門 ルウンペ編』津田命子

装身具を展示・収蔵している施設

装身具を展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

北海道内

- | | |
|---------------------|---------------|
| ●旭川市博物館 | 旭川市神楽3条7丁目 |
| ●網走市立郷土博物館 | 網走市桂町1-1-3 |
| ●浦河町立郷土博物館 | 浦河町字西幌別273 |
| ●帯広百年記念館 | 帯広市緑ヶ丘2 |
| ●萱野茂二風谷アイヌ資料館 | 平取町字二風谷 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●財団法人アイヌ民族博物館 | 白老町若草2-3-4 |
| ●財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 | 札幌市中央区北1条西7丁目 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター | |
| 「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯27 |
| ●新ひだか町アイヌ民俗資料館 | 新ひだか町静内真歌7-1 |
| ●弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 | 弟子屈町字弟子屈276-1 |
| ●苫小牧市博物館 | 苫小牧市末広町3-9-7 |
| ●函館市北方民族資料館 | 函館市末広町 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町字二風谷 |
| ●北海道大学植物園・博物館 | 札幌市中央区北3条西8丁目 |
| ●北海道開拓記念館 | 札幌市厚別区厚別町小野幌 |
| ●北海道立アイヌ総合センター | 札幌市中央区北2条西7丁目 |
| ●北海道立北方民族博物館 | 網走市字潮見313-1 |
| ●幕別町蝦夷文化考古館 | 幕別町千住114-1 |
| ●室蘭市民俗資料館 | 室蘭市陣屋町2-4-25 |

北海道外

- | | |
|--------------|------------------|
| ●東京国立博物館 | 東京都台東区上野公園13-9 |
| ●アイヌ文化交流センター | 東京都中央区八重洲2丁目4-13 |
| ●国立民族学博物館 | 吹田市千里万博公園10-1 |
| ●天理大学付属天理参考館 | 奈良県天理市守目堂町250 |

アイヌ生活文化再現アニュアル
装身具
【マタンプシ・レクトウンペ・テクンペ・ホシ・マンタリ】

2013年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (5階)

TEL (011) 271-4171/FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾を求めてください。